

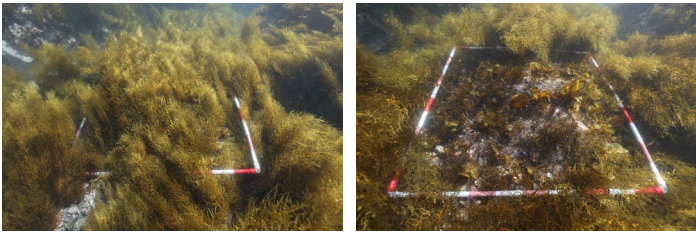
2024年度ブルーカーボン量（湿重量、含水率、P/B比）
島勝浦 食害により草丈が短い範囲

【対象面積の海藻類について】
ヤツマタモクが優占している。
その他にヨレモクモドキ、マメタワラ、ウミウチワ、カギケノリ、ツカサアミ、スギノリ、オバクサ、ヒロメ、ソゾ属、アオサ属、ミル属等が見られた。また、2月頃には一面をフクロノリが覆う。

【湿重量の計測】
ツボ狩りは、対象面積の海藻類を代表する海藻が生育する場所（被度80％）において1m方形枠を設置し、枠内の海藻を採取して重量（kg）を計測した。

【含水比の算出】
採取した海藻のうち一部の海藻を十分に乾燥させ、重量を測定して乾重量/湿重量より含水率を算出した。

【P/B比の算定】
横山ほか、1999の文献および採取した海藻の高さからP/B比を算定した



※袋重量0.14kg含む



2月頃、
全体を覆う
フクロノリ

単位面積当たりの湿重量：3.81kg/m²
3.81 × 10 = 38.1t/ha

湿重量 ⇒ 乾重量
80℃で48時間
82.02 g ⇒ 12.34 g
82.50 g ⇒ 15.26 g

含水率：平均83.22%

【ヤツマタモク】
P/B比：1.5

【確実性評価について】
ツボ狩り時において、全面をヘラで綺麗に剥ぎ取ってしまうと翌年に生えづらい為、ある程度の長さを残している。そのため、湿重量及び含水比、P/B比に対して過小評価を行っており、吸収係数に係る自己評価を100とする。